

“地域に根ざした拠点” を調べてみました

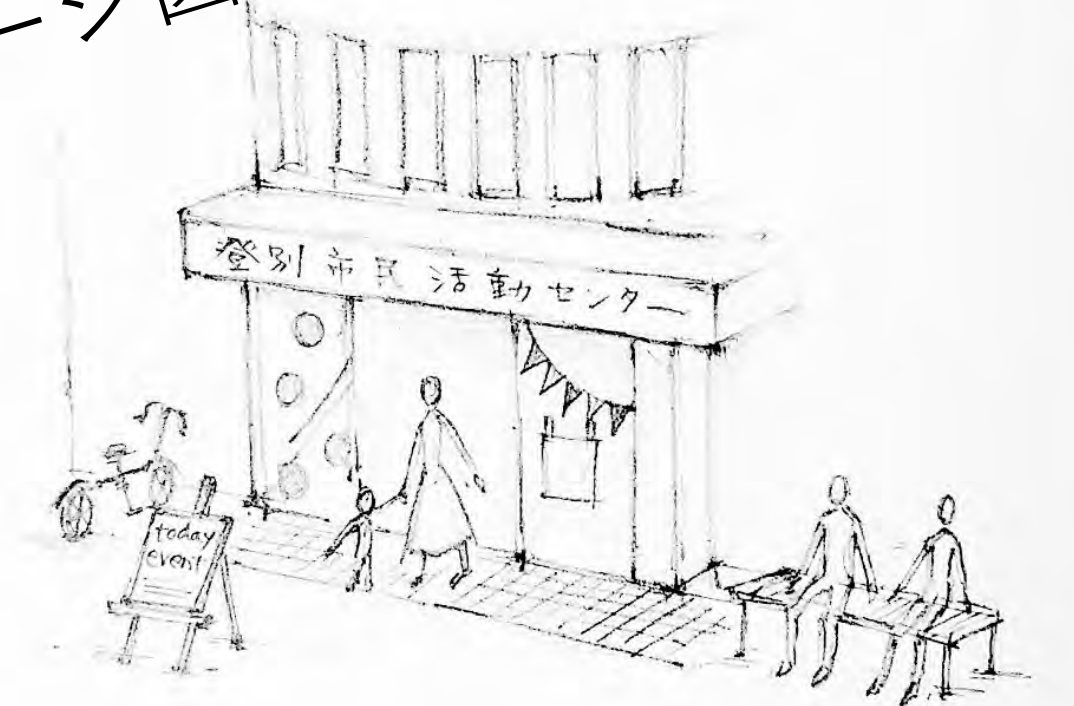
いま、地域の中で「交流」や「活性」する場が求められており、全国各地に様々な拠点があります。その中でも、地域に根付き、地域の活性化や地域の人々の交流の場として機能している場があります。

市民活動センターのぼりんがより良い施設・空間＋機能を発揮するためには何が必要なのかをみなさんと一緒に考えていきたいです。また、このポスターを通してのぼりんの様々な利用方法を見付け、活用してください。



のぼりんスタッフ：吉住 佳子

のぼりん
イメージ図



吉住が考える！のぼりん運営のヒント を絵にしてみました

- Point①→利用者の方が、建物に入りやすいような雰囲気
Point②→暖かい日には、外でお話ができるような場所
Point③→ワクワクしながら来ていただけるような場所



三田の家/芝の家

参考・引用文献：三田の家HP（2019.1検索）

吉住が考える！のぼりん運営のヒント

Point①「利用者が自然体でいられる場」

私はこの二つの拠点の、様々な人たちが自然と集まり、おしゃべりや意見交換などを気軽にできるような空間、またスタッフが利用者に対して強く何かをするわけではなく、利用者が自然とやりたいことをできるような空間がとても良いと感じました。のぼりんでは、リピーターが多く、比較的固定した利用がその多くを占めていたり、この拠点のように大学のような交流人口の多い拠点が身近にないことなどが挙げられます。

この拠点から学べるのぼりん運営のヒントは、まず今までのぼりんに入りづらいと思っている方が建物に入りやすい雰囲気を作ることが大切だと考えます。



←三田の家

↓芝の家



コンセプト

人々がカジュアルに出会い、
学びあい、交歓する場

機能

居酒屋のような機能
集会所、教室のような空間

まちなか交流広場「ステージえんがわ」

参考・引用文献：ステージえんがわHP（2019.1検索）

吉住が考える！のぼりん運営のヒント

Point②「ゆったりできる場」

私はこの拠点の、縁側をモチーフにされていて、どんな人でも迎え入れてくれるような空間がとても良いと感じました。のぼりんでの課題として、のぼりんの建物外観がしっかりとっていて、無機質な素材のため入りにくい、建物内でも一休みできるような空間ではないなどが挙げられます。

のぼりんへアイデアを生かしていくとすると、まずは利用者さん同士のちょっとした交流の機会を増やし、のぼりに来たら、いろんな人と関わり合うことが楽しいと思っていただけるようにハード・ソフトの両面の充実が必要だと考えます。

立川市子ども未来センター

参考・引用文献：立川市子ども未来センターHP（2019.1検索）

吉住が考える！のぼりん運営のヒント

Point③「ワクワクを発見できる場」

私はこの拠点の、様々なテーマを柱にもち、空間を仕切りながらも全体としては繋がりがあつくつりになっていることがとても良いと感じました。

のぼりんでは、いくつかのテーマごとに空間を分けることは物理的に難しいのですが、まず日替わりで1階のスペースを使って頂きながら、徐々に同じテーマの方や違うテーマの方と交流の機会を増やすなど、運用面で工夫を加えながら、来た時に、今日はなんのイベントがあるんだろうとワクワクしながら来ていただけるような場所になることが大切だと考えます。



コンセプト

ヒト、コト、マチを
つなげていく縁側

機能

市民活動の場、
地域のことを知る場、
ゆったりとくつろぐ場

東京都立川市にある拠点では、旧市役所を改修し、子育て、教育、市民活動、文化芸術活動を支援するとともに、イベント実施などによって地域の賑わいを生み出す複合施設です。

様々な用途に合わせた空間があり、子どもや子育て家庭、市民団体によるコミュニティプログラムの展開、イベント開催など、来館される方にとって「来たらワクワクする場」を目指している場所です。

コンセプト

来たらワクワクする場

機能

子育てひろば、会議室、
アトリエ、ギャラリー、
スタジオ、協働事務室、
立川まんがぱーく

